

11th JSMD プログラム

会長講演

教育講演1～4

シンポジウム1～12

パネルディスカッション

ワークショップ1～5

市民公開講座

自殺予防研修会

自殺対策委員会企画シンポジウム

双極性障害委員会企画シンポジウム

多職種連携委員会企画シンポジウム

第8回うつ病診療講習会

第9回 学会奨励賞受賞講演

うつ病治療の再考
～脳科学からメンタルヘルスまで～

*Rethinking of
Depression Treatment:
From Neuroscience to
Mental Health*





会長講演

2014年7月18日(金) 12:50～13:40

A会場(フェニックスホール)

うつ病医療はどこまで国民のニーズにこたえられるか？

司 会	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
演 者	山脇 成人	広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学

教育講演1

2014年7月19日(土) 11:10～12:00

B会場(大会議室ダリア①)

社会疫学からみたうつ病の社会格差

司 会	明智 龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野
演 者	川上 憲人	東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

教育講演2

2014年7月19日(土) 11:10～12:00

C会場(大会議室ダリア②)

社会脳：共感と向社会行動の神経基盤：脳機能画像法によるアプローチ

司 会	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター
演 者	定藤 規弘	自然科学研究機構生理学研究所大脳皮質機能研究系心理生理学研究部門

教育講演3

2014年7月19日(土) 11:10～12:00

D会場(中会議室コスモス①)

うつ病と新世代の認知行動療法

司 会	坪井 康次	東邦大学心療内科
演 者	熊野 宏昭	早稲田大学人間科学学術院

教育講演4

2014年7月19日(土) 11:10～12:00

E会場(中会議室コスモス②)

養育環境によるストレスレジリエンス形成のエピジェネティック・メカニズム

司 会	上野 修一	愛媛大学大学院医学系研究科分子・機能領域精神神経科学講座
演 者	森信 繁	高知大学医学部神経精神科学



シンポジウム1 児童・青年期のうつ治療再考

2014年7月18日(金) 9:30~11:30

A会場(フェニックスホール)

オーガナイザー 齊藤 万比古 総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科

【趣旨・狙い】

児童・青年期の「子どものうつ」に関する概念上のある種の混乱は、うつ状態を呈するこの年代の子どもが確かに存在しているにもかかわらず、その治療にも不確実さを強いている。そこで本シンポジウムでは、子どものうつ治療に関与する臨床家の視野を少しでも広げ、合理的な治療の確立に寄与することを目指して、DSM-5による概念整理が子どものうつ治療に及ぼすであろう影響、小児期と成人期のうつ病が異なる病態である可能性を含めた薬物療法のエビデンスのとらえ方、乳幼児期親子関係の様態という文脈による子どものうつ治療、そしてうつとの親和性の高い10から15歳の女子のうつへの精神療法という観点から議論を深めたい。

司 会

齊藤 万比古 総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科
岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科

- S1-1 **DSM-5時代の子どものうつ病概念**
齊藤 卓弥 北海道大学大学院医学研究科児童思春期精神医学講座
- S1-2 **子どものうつ病の薬物療法のエビデンスは何を語るか**
岡田 俊 名古屋大学医学部附属病院親と子どもの心療科
- S1-3 **子どものうつ病と子どもが「悲しくなる」こと**
小平 雅基 総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科
- S1-4 **思春期女子のうつ病に対する精神療法的アプローチ**
齊藤 万比古 総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科

シンポジウム2 集団認知行動療法によるうつ病の治療と予防

2014年7月18日(金) 9:30~11:30

B会場(大会議室ダリア①)

オーガナイザー 秋山 剛 NTT東日本関東病院

【趣旨・狙い】

集団認知行動療法は、適用が広い介入であり、治療のみならず予防の目的での活用が可能と考えられる。集団認知行動療法研究会 <http://cbgt.org/> では、基礎研修会、年次総会、テキストの発行などを行っている。会員は、様々な立場で活動しており、このシンポジウムでは、「女性のための集団認知行動療法」「リワークプログラムにおける集団治療としての特徴」「職域における一次予防」「教育における一次予防」について発表していただく。集団認知行動療法は、このほか保健師による地域や若い母親への介入、高齢者への支援にも応用できるのではないかと考えられる。参加者と、様々な場での集団認知行動療法の活用方法について議論したい。

司 会

秋山 剛 NTT東日本関東病院
横山 太範 さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ

- S2-1 **女性うつ病患者を対象とする集団認知行動療法**
岡田 佳詠 筑波大学医学医療系
- S2-2 **リワークプログラムにおける集団療法としての特徴**
横山 太範 さっぽろ駅前クリニック北海道リワークプラザ
- S2-3 **職域における一次予防と集団認知行動療法**
奥山 真司 トヨタ自動車株式会社人事部

- S2-4 **教育領域における一次支援プログラム**
 太田 滋春 さっぽろCBT counseling space ころろsofa
- 指定発言 教育における一次予防**
 朝日 真奈 大谷学園

シンポジウム3 職域でのうつ病予防 – 睡眠教育と低強度CBTを用いた一次予防 –

〈日本うつ病学会とうつ病の予防・治療日本委員会との共催シンポジウム〉

※日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門2単位を取得できます。

2014年7月18日(金) 9:30～11:30

C会場(大会議室ダリア②)

オーガナイザー 樋口 輝彦 国立精神・神経医療研究センター

【趣旨・狙い】

うつ病の予防は、産業保健活動の中心的課題である。現在、一次予防対策として、メンタルヘルスの基礎知識やストレスへの気づきに関する教育などが行われているが、未だ十分な効果は認められていない。本シンポジウムでは、職域でのエビデンスが示されつつある睡眠教育と低強度CBTを用いた一次予防について議論を深めたいと考えている。

- 司 会** 野村 総一郎 防衛医科大学校
 三島 和夫 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部
- S3-1 **睡眠衛生教育とCBT-Iを用いたうつ対策**
 三島 和夫 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部
- S3-2 **労働者の抑うつに対する睡眠保健指導の効果**
 田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学
- S3-3 **低強度CBTを用いたレジリエンスの向上**
 大野 裕 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
- S3-4 **職域における低強度CBTの実践とその効果**
 森 まき子 コニカミノルタ株式会社

シンポジウム4 周産期うつ病患者への対応

2014年7月18日(金) 9:30～11:30

D会場(中会議室コスモス①)

オーガナイザー 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

【趣旨・狙い】

WHOは、性差を考慮に入れたメンタルヘルス対策の重要性を強調し、世界規模での研究が開始され、うつ病を含む精神障害に関して、性差の観点から為された検討結果に基づいた診療の実現が求められている。特に、妊娠・出産は妊産婦やその家族にとって喜ばしい時期である一方、うつ病をはじめとする気分障害の発症率の高い時期であり、治療の対象となるケースも多い。我々治療者は、うつ病患者とその家族に治療に関するベネフィットとリスクを説明し、shared decision-makingに至るため、妊娠・授乳中のうつ病とその治療に関し、何がどこまで明らかになっているかを明確化しておく必要があり、本シンポジウムを企画した。

- 司 会** 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
 北村 俊則 北村メンタルヘルス研究所/
 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

- S4-1 **産褥期うつ病の予防・早期発見の方策**
北村 俊則 北村メンタルヘルス研究所/
名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
- S4-2 **周産期精神看護の留意点～助産師の立場から～**
新井 陽子 北里大学看護学部生涯発達看護学
- S4-3 **周産期うつ病の薬物療法の留意点**
杉山 暢宏 信州大学医学部附属病院精神科
- S4-4 **周産期のうつ病患者を理解し、妥当性の承認 (validation of perception) へ**
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野

シンポジウム5 高齢者うつ病の治療 –エビデンスと臨床経験からの再考–

2014年7月18日(金) 9:30～11:30

E会場(中会議室コスモス②)

オーガナイザー 馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学/
順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

【趣旨・狙い】

高齢者うつ病の薬物治療においては、加齢による薬物動態の変化のみならず脳の器質的変化も考慮した治療戦略の組み立てが必要であろう。また高齢者特有の心理・社会的背景を考慮した心理的アプローチも重要であるが、重症化した場合は食欲不振による全身衰弱や自殺の危険性が高く、入院による急性期治療が必要となることも多い。病状への看護の影響は若年者のうつ病より高く、高齢者心性とうつ病心理に配慮した対応が必要となる。高齢者うつ病は認知症への移行も多いが、認知症に伴ううつ状態に対する抗うつ薬の使用については是非が問われている。本セッションでは最新のエビデンスと臨床現場での経験から高齢者うつ病の治療を再考したい。

- 司 会** 水上 勝義 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント科学専攻
ストレスマネジメント領域
- 馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学/
順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
- S5-1 **高齢者うつ病の薬物療法アップデート**
山下 英尚 広島大学病院精神科/広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学
- S5-2 **非薬物治療について –包括的治療の重要性–**
下田 健吾 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科
- S5-3 **高齢者のうつ病看護 –臨床経験を通して改めて考える–**
宮本 晶 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
- S5-4 **うつ病から認知症への移行と認知症に伴ううつ状態の治療再考**
馬場 元 順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学/
順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

シンポジウム6 がん患者・家族のうつ病治療再考

2014年7月18日(金) 15:20～17:20

E会場(中会議室コスモス②)

オーガナイザー 内富 庸介 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室

【趣旨・狙い】

がん患者のうつ病治療の成績は必ずしも良くない。がん患者のうつ病の病態が徐々に明らかになるにつれ、精神療法ほど薬物療法は芳しくない。そこで、がん患者家族も視野に入れて、今一度治療を再考してみる機会を設けたい。

- | | | |
|------|--|--|
| 司 会 | 松島 英介
内富 庸介 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心療・緩和医療学分野
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学教室 |
| S6-1 | 薬物療法
清水 研 | 国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科 |
| S6-2 | がん患者に対する精神療法
松島 英介 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科心療・緩和医療学分野 |
| S6-3 | がん患者の精神症状緩和のためのコラボレイティブケアの試み
明智 龍男 | 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野 |
| S6-4 | 遺族の大うつ病診断と治療
大西 秀樹 | 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 |

シンポジウム7 うつ病はどこまでわかってきたか

2014年7月19日(土) 9:00～11:00

A会場(フェニックスホール)

オーガナイザー 須原 哲也 放射線医学総合研究所分子神経イメージングプログラム

【趣旨・狙い】

うつ病が現代の脳科学でどのようにとらえられているかを、これまでの研究の歴史も踏まえて、遺伝子レベルからの理解、新薬開発に必要なモデル動物からみた理解、さらに機能画像からみたうつ病の病態に関し、それぞれの研究分野の第一人者から解説していただく。

- | | | |
|------|---|---|
| 司 会 | 須原 哲也
岡本 泰昌 | 放射線医学総合研究所分子神経イメージングプログラム
広島大学医歯薬保健学研究院精神神経医科学 |
| S7-1 | イントロダクション：DSM-5におけるうつ病の位置づけ
黒木 俊秀 | 九州大学大学院人間環境学研究院 |
| S7-2 | 遺伝子からみたうつ病
池田 匡志 | 藤田保健衛生大学医学部精神神経科学 |
| S7-3 | うつ病のモデル動物とは
加藤 忠史 | 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム |
| S7-4 | 脳からみたうつ病の症候と治療
岡本 泰昌 | 広島大学医歯薬保健学研究院精神神経医科学 |

シンポジウム8 うつ病の精神療法再考

2014年7月19日(土) 9:00~11:00

B会場(大会議室ダリア①)

オーガナイザー 大野 裕 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

【趣旨・狙い】

うつ病の治療においては薬物療法と並んで精神療法が重要な役割を果たす。これまでは精神療法についてそれぞれの立場からの発言はあったが、領域を超えて議論されることは少なかった。今回は、臨床の最前線で活躍されている精神科医の方々に集まっていただき、うつ病治療における精神療法の役割と今後の展望について再考し、垣根を越えて自由に話し合っていくことにした。

司 会 大野 裕 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター
平島 奈津子 国際医療福祉大学三田病院精神科

S8-1 精神分析の観点から

平島 奈津子 国際医療福祉大学三田病院精神科

S8-2 森田療法の立場から

中村 敬 東京慈恵会医科大学附属第三病院精神神経科・森田療法センター

S8-3 小精神療法の立場から

西岡 和郎 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

S8-4 うつ病に対する行動活性化療法

神人 蘭 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学／
広島大学保健管理センター

S8-5 認知行動療法の実践：研修とエビデンス

中川 敦夫 慶應義塾大学医学部クリニックリサーチセンター

指定発言 対人療法関係の立場から

水島 広子 水島広子こころの健康クリニック／慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

シンポジウム9 うつ病のBrain Stimulation療法

2014年7月19日(土) 9:00~11:00

C会場(大会議室ダリア②)

オーガナイザー 鬼頭 伸輔 杏林大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

脳科学の発展と脳疾患の病態解明に伴いbrain stimulationに関する研究が盛んである。うつ病の治療では、すでに確立している電気けいれん療法(ECT)に加え、経頭蓋直流刺激(tDCS)、反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)、迷走神経刺激(VNS)、深部脳刺激(DBS)、磁気けいれん療法(MST)などが試みられている。これらは、けいれん療法と非けいれん療法、もしくは、侵襲性の程度(埋め込み型か否か)から大別でき、非けいれん療法については異なる作用機序が想定される。今後、有効性、利便性、忍容性、侵襲性などの観点から、取捨選択されていくものと考えられる。本シンポジウムでは、ECT、rTMS、DBSに関する最新の知見を紹介する。

司 会 本橋 伸高 山梨大学大学院医学工学総合研究部精神神経医学
鬼頭 伸輔 杏林大学医学部精神神経科学教室

S9-1 うつ病のECT

竹林 実 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター精神科／
国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター臨床研究部精神神経科学

- S9-2 **ドパミン神経系からみた脳刺激の役割**
中村 元昭 神奈川県立精神医療センター／昭和大学医学部精神医学教室／
ATR 脳情報通信総合研究所／横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門
- S9-3 **うつ病のrTMS「特殊形状コイルを使用した deep TMS によるうつ病の治療」**
鬼頭 伸輔 杏林大学医学部精神神経科学教室
- S9-4 **うつ病に対する脳深部刺激**
三村 将 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

シンポジウム 10 うつ病のアルコール問題再考

2014年7月19日(土) 9:00～11:00

D会場(中会議室コスモス①)

オーガナイザー 齋藤 利和 札幌医科大学医学部神経精神医学講座名誉教授／北仁会幹メンタルクリニック

【趣旨・狙い】

うつ病とアルコール依存症は併存率が高いと報告されている。さらに両者が併存するとそれぞれの疾患の予後が悪くなるとされている。また、最近ではアルコール依存症でなくとも長期・大量飲酒がうつ病の予後に影響するとも報告されている。すなわち、治療抵抗性のうつ病ではその背後に飲酒の問題が隠れていることが少なくなく、持続的な飲酒が精神療法、薬物療法の効果を低下させると言われている。

本シンポジウムではこうした、アルコール使用障害を併発したうつ病について薬理的、臨床精神医学的立場からその実態を明らかにし、治療法を模索することを試みたい。

司 会 齋藤 利和 札幌医科大学医学部神経精神医学講座名誉教授／北仁会幹メンタルクリニック
杠 岳文 肥前精神医療センター

- S10-1 **うつ病とアルコールによる脳障害を生物学的の相同性から考える**
橋本 恵理 札幌医科大学医学部神経精神医学講座
- S10-2 **アルコール使用障害を併発したうつ病に対する精神療法的試み**
松下 幸生 国立病院機構久里浜医療センター
- S10-3 **アルコール使用障害を併発したうつ病に対する飲酒量低減の試み**
杠 岳文 肥前精神医療センター
- S10-4 **アルコール使用障害を併発したうつ病の薬物反応性**
齋藤 利和 札幌医科大学医学部神経精神医学講座名誉教授／北仁会幹メンタルクリニック

シンポジウム11 難治性うつ病の解決を目指す新しい方向性

2014年7月19日(土) 14:00～16:00

B会場(大会議室ダリア①)

オーガナイザー 井上 猛 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

【趣旨・狙い】

これまで様々な抗うつ薬、増強療法、身体療法、精神療法がうつ病治療に導入されてきているが、依然難治性うつ病は精神科臨床におけるもっとも重要な課題の一つである。意外なことに、国内外を問わず難治性うつ病についてはこれまで十分に研究されていない。このことは、難治性うつ病の解決が遅れている要因の一つである。本シンポジウムでは、これまでに行われてきた難治性うつ病の実証的な研究、実臨床の観察からえられたデータをもとに、難治性うつ病の病因・病態を再考し、難治性うつ病解決のための研究、診断、治療の方向性を提言したい。

司 会 井上 猛 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野
寺尾 岳 大分大学医学部精神神経医学講座

- S11-1 虐待・ストレスからの視点
戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座
- S11-2 脳画像研究からみた難治性うつ病と治療抵抗性の予測
高石 佳幸 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学
- S11-3 視床下部-下垂体-副腎系と難治性うつ病
功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部
- S11-4 難治性うつ病の認知行動療法～特に行動活性化について～
北川 信樹 北大通こころのクリニック

シンポジウム12

身体疾患患者のメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクトの進展
(日本うつ病学会と国立精神・神経医療研究センターとの共催シンポジウム)

2014年7月19日(土) 14:00～16:00

C会場(大会議室ダリア②)

オーガナイザー 伊藤 弘人 国立精神・神経医療研究センター

【趣旨・狙い】

平成24年度に開始された「身体疾患患者に対するメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクト」は3年目を迎えた。患者手帳、フォローアップ、服薬支援を要素とした「うつ病等の精神疾患を合併する身体疾患患者への慢性疾患管理プログラム」として、いくつかのモデル地域で運用が開始されている。また、プロジェクトのベースとなる研修は組織化されつつある。本報告では、プロジェクトのその後の進展を研修を中心に紹介するとともに、3つの国立高度専門医療研究センターでの取り組みを紹介する。

司 会 樋口 輝彦 国立精神・神経医療研究センター
伊藤 弘人 国立精神・神経医療研究センター

- S12-1 ナショナルプロジェクトの動向と研修
安井 博規 大阪大学循環器内科/国立精神・神経医療研究センター/国立循環器病研究センター
- S12-2 脳卒中の地域連携と「うつ」への取り組み
長束 一行 国立循環器病研究センター脳神経内科
- S12-3 成育医療における取り組み
立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

S12-4 **身体疾患患者のメンタルケアモデル開発ナショナルプロジェクトの進展**
野田 隆政 国立精神・神経医療研究センター病院

パネルディスカッション 産業医のためのうつ病TIPS

※日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門1.5単位を取得できます。

2014年7月18日(金) 15:20～16:50

C会場(大会議室ダリア②)

コーディネーター 中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

職場においては、うつ状態・うつ病などのメンタルヘルス不調によって休職している人や復職した人が増加しており、産業医を含めた産業保健スタッフには、これらの人への対応が要請されている。また、労働安全衛生法の一部が改正され、健診時のメンタルヘルス検査、その不調への対応や一次予防も必要になってくると考えられ、産業保健スタッフには、うつ状態・うつ病などへの知識だけでなく実践的な対応能力を向上するという喫緊の課題がある。そのためには精神科医との円滑な連携が必須になると思われる。そこで、産業医、EAP、診療所、病院の臨床医、それぞれの立場から実際の産業保健活動に役立つ情報が提供できればと考えている。

司 会 中村 純 産業医科大学医学部精神医学教室
田中 克俊 北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学

PD-1 **大学病院の使い方～連携を中心に～**
井上 幸紀 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学教室

PD-2 **メンタルクリニックにおける復職へのTIPS**
佐々木 高伸 佐々木メンタルクリニック

PD-3 **EAPが出来ることの現状と課題を再考する**
高野 知樹 弘富会神田東クリニック

PD-4 **職域メンタルヘルスにおける産業医の臨床技術を吟味・再考する
～面談の工夫と現場での取り組みについて～**
宇都宮 健輔 株式会社東芝本社本社診療所

ワークショップ1 気分障害に対する対人関係療法

2014年7月18日(金) 15:20～16:50

B会場(大会議室ダリア①)

コーディネーター 水島 広子 水島広子こころの健康クリニック/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

【趣旨・狙い】

エビデンス・ベイストな精神療法として認知行動療法(CBT)と双璧をなす対人関係療法(IPT)について、その国際的エビデンス、我が国におけるパイロット研究結果、CBTと比較した場合のIPT、いわゆる「難治性うつ」に対するIPTなど、現在気分障害について知っておくべきIPTの適用と成果を概説する。

司 会 水島 広子 水島広子こころの健康クリニック/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
近藤 真前 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学

WS1-1 **うつ病の心理社会的側面とIPT**
前川 浩子 金沢学院大学文学部国際文化学科

- WS1-2 対人関係療法の臨床的特徴 – 認知行動療法と比較して –**
 近藤 真前 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学
- WS1-3 日本におけるうつ病に対する対人関係療法のパイロット研究**
 小山 康則 社都千愛病院
- WS1-4 いわゆる「難治性うつ」に対する対人関係療法**
 水島 広子 水島広子こころの健康クリニック/慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

ワークショップ² よくわかるうつ病脳科学入門

2014年7月18日(金) 15:20～16:50

D会場(中会議室コスモス①)

コーディネーター 松尾 幸治 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野

【趣旨・狙い】

うつ病の生物学的研究は、動物実験から臨床研究まで、遺伝子から脳画像にまで、さまざまなレベルで急速に進んできている。最近では、こうした成果を一般の人に積極的に還元していくことが社会的にも求められてきている。研究に携わらない多職種の方々も、そうした知識をもつことは疾患を深く理解するのに役立つだろうが、一方で非専門家にはとっつきにくい分野でもある。

本ワークショップは、うつ病の脳科学に関する素朴な疑問、基本的な知識から最先端の研究までをわかりやすく解説し、多職種の医療・福祉関係者に理解してもらうことを目的とし、研究成果の共有の必要性および現場からの研究への期待についてディスカッションしていきたい。

司 会 松尾 幸治 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野
 竹林 実 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター精神科/
 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター臨床研究部精神神経科学

- WS2-1 脳画像からうつ病の脳メカニズムは明らかになるか?**
 松尾 幸治 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野
- WS2-2 血液によるうつ病の客観的診断は可能か?**
 伊賀 淳一 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
- WS2-3 新たな抗うつ薬を創ることはできるのか?**
 竹林 実 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター精神科/
 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター臨床研究部精神神経科学
- WS2-4 脳の遺伝子研究からうつ病の原因はみつけられるか?**
 岩本 和也 東京大学大学院医学系研究科分子精神医学講座



ワークショップ3 抗うつ薬・双極性障害治療薬の重篤な副作用の基本 〈日本うつ病学会と日本精神神経学会との共催シンポジウム〉

2014年7月18日(金) 15:20～16:50

F会場(会議運営事務室①+②)

コーディネーター 鈴木 映二 国際医療福祉大学熱海病院

【趣旨・狙い】

このワークショップは、日本うつ病学会と日本精神神経学会向精神薬の副作用診断・治療ガイドラインタスクフォース委員会との共催である。

最近の抗うつ薬・双極性障害治療薬にはラモトリギンの粘膜皮膚眼症候群などの重篤な副作用のリスクがある。外来診療で生じる副作用の約半数は未然に防ぐ事が出来たという報告もあり、特に重篤な副作用に関しては早期発見と適切な処置が重要である。今回のワークショップの目的は、抗うつ薬・双極性障害治療薬の重篤な副作用に関する総論、皮膚症状、汎血球減少症、糖・脂質代謝異常、肝障害、薬の飲み合わせについての基本的な知識について学んでいただくことである。

司 会

三國 雅彦 国際医療福祉大学病院精神科
鈴木 映二 国際医療福祉大学熱海病院

- WS3-1 **気分障害治療薬の副作用：総論および副作用モニタリング**
三浦 智史 九州大学病院精神科神経科
- WS3-2 **皮膚症状(薬疹)**
山田 和男 東京女子医科大学東医療センター精神科
- WS3-3 **汎血球減少**
高橋 啓介 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
- WS3-4 **糖脂質代謝関連副作用のモニタリングについて**
鈴木 雄太郎 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
- WS3-5 **精神科薬物療法と薬物性肝障害：臨床での注意点を中心に**
中川 敦夫 慶應義塾大学医学部クリニカルリサーチセンター
- WS3-6 **抗うつ薬、双極性障害治療薬の薬物相互作用**
鈴木 映二 国際医療福祉大学熱海病院



ワークショップ4 うつ病診療における器質因(身体的要因)の重要性を再考する (日本うつ病学会と日本総合病院精神医学会との共催ワークショップ)

2014年7月19日(土) 14:00~15:30

D会場(中会議室コスモス①)

コーディネーター 和田 健 広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科

【趣旨・狙い】

現在うつ病の診断は、操作的診断基準に基づいて横断面の症候学的評価によりなされることが主流であり、病因に基づく診断とはなり得ていない。器質因(身体的要因)が関与するうつ病では、当該身体疾患の治療により改善が期待できるため、初期診断が非常に重要となる。器質因(身体的要因)の存在をまず疑って患者を診る姿勢が求められる。薬物療法においても、特に高齢患者では合併身体疾患を考慮した薬剤選択や用量調節が必要であり、身体疾患治療薬と向精神薬との薬物相互作用にも注意を払わなければならない。ややもすると日常のうつ病診療で見落としがちな器質因(身体的要因)の再発見、再認識に役立つようなワークショップとしたい。

司 会 高畑 紳一 県立広島病院精神神経科

木村 真人 日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

WS4-1 うつ病診療における器質因(身体的要因)の着眼点

萬谷 智之 マツダ病院精神科・心療内科

WS4-2 うつ病診断における器質因(身体的要因)の重要性

和田 健 広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科

WS4-3 現代の「外因性」うつ病の考え方 器質因(身体的要因)の注意点

日笠 哲 広島市立病院機構広島市立安佐市民病院精神科

ワークショップ5 地域におけるセルフヘルプグループ活動の実践報告と ワークショップ

2014年7月19日(土) 14:00~15:30

E会場(中会議室コスモス②)

【趣旨・狙い】

広島市内の教会を会場に宇宙ミーティングというセルフヘルプグループ活動をおこなっています。北海道浦河町にある「べてるの家」のミーティングにもとづいたミーティングとSST(ソーシャル・スキルズ・トレーニング=社会生活技能訓練)です。地域の中でのうつ病体験者の交流の場として、またストレスマネジメントの技術取得の場としての実践報告とワークショップをおこないます。

コーディネーター 濱田 裕三 広島南部教会/宇宙ミーティング主宰

司 会

WS5-1 地域におけるセルフヘルプグループ活動の実践報告とワークショップ

濱田 裕三 広島南部教会/宇宙ミーティング主宰



市民公開講座

2014年7月19日(土) 15:00～18:00

A会場(フェニックスホール)

うつ病の起源から未来医療へ

【趣旨・狙い】

なぜ、私たちはうつ病になるのでしょうか？そして、この病とどのように向き合えば良いのでしょうか？うつ病は、この10年余りで2倍に急増、100万人に達しています。その一方で抗うつ薬の処方数は激増していますが、うつ病が関連するとされる自殺者数は高止まりのままです。

今回の市民公開講座では、現代社会に生きる私たちを脅かすうつ病の進化論的起源から、うつ病に関連した生活習慣や心のスランプと向き合う様々な工夫、さらに、最新の脳科学研究が目指す、その病態の解明、新しい診断法や治療法の開発を御紹介し、これからの医療について共に考えたいと思います。

<プログラム>

開会挨拶： 津本 忠治 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
脳科学研究戦略推進プログラム

[講演 第1部]

座 長 山脇 成人 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学

講演1: 脳の進化から探るうつ病の起源
山本 高穂 NHK スペシャル「病の起源」(ディレクター)

講演2: 心のスランプとどう向き合うか
為末 大 アスリートソサエティ(代表理事)

(休憩 10分)

[講演 第2部]

座 長 加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
脳科学研究戦略推進プログラム

講演3: うつ病の現状と脳科学研究の応用
山脇 成人 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学

講演4: BMIなどの脳科学によるうつ病の治療創成
川人 光男 国際電気通信基礎技術研究所脳情報通信総合研究所

(休憩 10分)

講演者によるパネルディスカッション

座 長 加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター精神疾患動態研究チーム
脳科学研究戦略推進プログラム

開会挨拶： 山脇 成人 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学

共 催 日本うつ病学会・文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム(脳プロ)」
後 援 一般社団法人広島県医師会／一般社団法人広島市医師会／広島県／広島市／
社会福祉法人広島いのちの電話／一般社団法人広島県精神科病院協会／
広島県精神神経科診療所協会／中国新聞社／NHK 広島放送局



入 場 料 無料
定 員 800名

参加希望の方へのご案内

この市民公開講座は一般市民の方を対象にしております。

第11回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもありますのでご希望の方はご参加ください。

自殺予防研修会 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャル

2014年7月18日(金) 10:00～12:30

F会場(会議運営事務室①+②)

オーガナイザー 河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学/日本うつ病学会自殺対策委員会委員長

【趣旨・狙い】

自殺と精神保健の関連は密接であり、自殺対策基本法・対策大綱等においても医療・保健・福祉専門職の自殺予防対策への関与が強く求められています。本研修会は、様々な専門職・対人支援職を対象に実施されます。参加者は、多職種からなるグループにおいて、自殺予防対策専門家のレクチャーとガイドにより複雑事例の検討を行います。また、講師らによって新たに開発されたモジュールを用いることによって、自殺に傾く人のアセスメントと問題解決アプローチの手順を習得します。

司 会

河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進学
大塚 耕太郎 岩手医科大学災害地域精神医学講座

講師・コメンテーター

張 賢徳 帝京大学溝口病院精神科
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
稲垣 正俊 岡山大学病院精神科神経科
池下 克実 奈良県立医科大学精神医学講座

ファシリテーター

下田 重朗 奈良県立医科大学附属病院精神医療センター
岸本 智美 横浜市立大学保健管理センター
安東 友子 横浜市立大学保健管理センター
井上 佳祐 横浜市立大学医学部精神医学
川島 義高 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

定 員：40名 ※定員を上回る場合、受講できない場合もございますので予めご了承ください。

受 講 料：5,000円(テキスト代を含む)

参加資格：1.日本うつ病学会の会員 ※第11回日本うつ病学会総会にもご参加ください。

(対 象)：2.第11回日本うつ病学会総会に参加する臨時会員

【職種】上記1. 2.に共通

医 師：プライマリ・ケアに関わるすべての医師、精神科、心療内科

看護師：あらゆる看護職

コメディカル：精神保健福祉師・MSW・心理職・救急救命士・
行政の相談窓口担当者・介護専門職

形 式：研修会形式(事例検討を中心としたワークショップ)

グループワークは各班6人程度に分かれて行います。

主 催：第11回日本うつ病学会総会および日本うつ病学会自殺対策委員会

共 催：日本自殺予防学会、日本総合病院精神医学会自殺問題委員会



自殺対策委員会企画シンポジウム

自殺対策のための戦略研究・NOCOMIT-Jが明らかにしたこと

2014年7月18日(金) 15:20～17:20

A会場(フェニックスホール)

オーガナイザー 河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学

【趣旨・狙い】

自殺対策のための戦略研究・NOCOMIT-Jは、地域における自殺予防のための複合的な介入プログラムを開発し、その有効性を検証した大規模研究であり、最近その成果(有効性)が公表され国内外で注目されている。適切な研究手法により得られたこのNOCOMIT-Jの知見を以て、私たちは改めて自らの臨床や業務、そして地域自殺対策活動について再考をしていく必要がある。

司 会 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
張 賢徳 帝京大学溝口病院精神科

SS-1 自殺対策のための戦略研究：その背景と目的
山田 光彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

SS-2 NOCOMIT-J：その実務と成果
大塚 耕太郎 岩手医科大学

SS-3 地域における自殺対策への取り組み
宇田 英典 鹿児島県伊集院保健所

SS-4 複合的自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する地域介入研究
NOCOMIT-J
大野 裕 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

双極性障害委員会企画シンポジウム

混合病像・不安を伴う双極性障害の臨床

2014年7月19日(土) 9:00～11:00

E会場(中会議室コスモス②)

オーガナイザー 坂元 薫 東京女子医科大学医学部精神医学教室

【趣旨・狙い】

双極性障害・抑うつ性障害におけるDSM-5改訂の目玉は、従来の混合性エピソードが廃止され、「混合性の特徴」が設定されたことであろう。また抑うつ、躁病両エピソードにおいて「不安性の苦痛」が設定されたことも注目される。混合性の要素や不安が全くない純粋なうつ病、躁病はむしろ稀であり、混合病像を伴うものこそが躁うつ病の本態であることを示唆したクレペリンの指摘は今日でもその妥当性を失っていない。しかし混合病像や不安を伴う双極性障害の臨床に焦点を当てた議論がほとんど行われていないのが現状である。本シンポジウムでは、その点に多角的な視点から考察を加え、双極性障害の臨床の一層の充実をはかることを目的とした。

司 会 坂元 薫 東京女子医科大学精神医学講座
白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室

BS-1 混合状態概念の再登場—その捉え方と臨床的意義、DSM-5の問題
武島 稔 Jクリニック/厚生連高岡病院精神科

BS-2 混合状態—その治療的アプローチ
白川 治 近畿大学医学部精神神経科学教室



- BS-3 不安と躁・うつ—その診断と治療を再考する
坂元 薫 東京女子医科大学精神医学講座
- BS-4 双極性障害、不安、そして自殺行動
張 賢徳 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

多職種連携委員会企画シンポジウム 医療分野における専門職のメンタルヘルス

2014年7月19日(土) 9:00～11:00

F会場(会議運営事務室①+②)

オーガナイザー 長谷川 雅美 金沢医科大学看護学部精神看護学

【趣旨・狙い】

精神医療の現場で働く医療職に焦点を当て、それぞれのメンタルヘルスおよびそのサポートの実際と今後の対策について、医師、看護師、心理士の立場から体験を含めて発表し、会場も交えて意見交換と討論を展開する。

司 会 長谷川 雅美 金沢医科大学看護学部精神看護学
向笠 章子 聖マリア病院臨床心理室

- CS-1 医学部・病院を擁する総合大学におけるメンタルヘルス支援システムの構築
河西 千秋 横浜市立大学医学群健康増進科学
- CS-2 精神看護専門看護師としての看護職へのメンタルサポート
—うつ状態予防からキャリア開発支援まで—
宇佐美 しおり 熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座精神看護学
- CS-3 臨床心理士による全病院職員のメンタルヘルス対策と入職3年目の看護職員
の特徴
本山 亮 雪の聖母会聖マリア病院臨床心理室
- CS-4 医療従事者のメンタルヘルスケア —「燃えつき」研究の動向と課題—
佐野 信也 防衛医科大学校心理学学科目

第8回うつ病診療講習会

うつ病の寛解から完治・社会復帰へ向けて—職場のケース

2014年7月19日(土) 13:00～17:40

F会場(会議運営事務室①+②)

オーガナイザー 川崎 弘詔 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

【趣旨・狙い】

うつ病診療の実際を広く医療職に理解していただく事を目的にしている。特に職場復帰のケースを扱うので、産業医を対象に、単位の取得が可能にしている。特に、「うつ病の寛解から、完治へ」という典を目標にしているため、コメディカルの参加も期待している。また、精神科医も対象にし、復職に関する知識を取得していただく。現代型うつ病のケースを取り扱っているのも、うつ病学会の中で唯一のプログラムである。

定 員: 30名

受 講 料: 12,000円(テキスト・受講修了証・軽食代を含む)



参加資格：医師

形式：①少人数でのグループ形式参加型講習会 ②各分野の専門家による講演

講師：診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパート

主催：日本うつ病学会 診療教育委員会

産業医の方へ

第8回うつ病診療講習会は、日本医師会認定産業医制度生涯研修会として承認されました。日本医師会認定産業医の更新に必要な生涯・専門4単位を取得できます。

日本うつ病学会 診療教育委員会
委員長 川崎 弘詔
(九州大学大学院医学研究院精神病態医学)

<プログラム>

内 容		担当 / 講師 (所属)
イントロダクション 講習会概略説明		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学)
講演	うつ病診療の30年間の変化と 職場のメンタルヘルス	五十嵐 良雄 (メディカルケア虎ノ門)
症例検討①	典型的なメランコリー型うつ病	グループワーク
		症例解説：新開 隆弘 (産業医科大学医学部精神医学教室)
休 憩		
講演	薬物療法の留意点について	田島 治 (杏林大学保健学部精神保健学教室)
症例検討②	現代型のうつ病	グループワーク
		症例解説：橋本 恵理 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)
コメンテータ発言 (症例検討を通じて)		新開 隆弘 (産業医科大学医学部精神医学教室)
休 憩 (軽食：ケーキとコーヒー)		
講演	自己愛的なケースの扱い方	平島 奈津子 (国際医療福祉大学三田病院精神科)
講演	職場復帰のポイント	小川 哲男 (自衛隊福岡病院精神科)
講習会まとめ		川崎 弘詔 (九州大学大学院医学研究院 精神病態医学)



第9回 学会奨励賞受賞講演

2014年7月19日(土) 11:10～11:40

A会場(フェニックスホール)

司 会

神庭 重信

九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野/日本うつ病学会理事長

医学分野

P5-8 軽症うつ病における抑うつの自覚症状の乖離と自殺傾性との関連

演 者 ①

辻井 農亜

近畿大学医学部精神神経科学教室

医療保健分野

P5-1 広島県における自殺未遂者実態調査

演 者 ②

吉野 敦雄

広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学

11th JSMD プログラム

モーニングセミナー
ランチョンセミナー1~8
イブニングセミナー1~3



うつ病治療の再考
~脳科学からメンタルヘルスまで~

*Rethinking of
Depression Treatment:
From Neuroscience to
Mental Health*



モーニングセミナー

7月18日(金) 8:30~9:20

B会場(大会議室ダリア①)

うつ病を巡る診断の混迷と新たな診断法の開発

座長	松永 寿人	兵庫医科大学精神科神経科学講座
演者	森信 繁	高知大学医学部神経精神科学
共催	MSD株式会社	

ランチョンセミナー 1

7月18日(金) 11:40~12:40

A会場(フェニックスホール)

Augmentation therapy for patients with major depressive disorder who have partial - and non-response to antidepressants

座長	齋藤 利和	札幌医科大学名誉教授/北仁会幹メンタルクリニック
演者	Chi-Un Pae	Department of Psychiatry, The Catholic University of Korea College of Medicine, Seoul, Republic of Korea and Department of Psychiatry and Behavioral Sciences, Duke University Medical Center, Durham, NC, USA
共催	大塚製薬株式会社	

ランチョンセミナー 2

7月18日(金) 11:40~12:40

B会場(大会議室ダリア①)

改めて考える気分安定薬の副作用及びそのマネージメント

座長	堀口 淳	島根大学医学部精神医学講座
演者	渡邊 衡一郎	杏林大学医学部精神神経科学教室
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社	

ランチョンセミナー 3

7月18日(金) 11:40~12:40

C会場(大会議室ダリア②)

DSM-5の改訂点をうつ病と双極性障害の臨床に生かす

座長	石郷岡 純	東京女子医科大学医学部精神医学教室
演者	尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野
共催	ファイザー株式会社	

ランチョンセミナー 4

7月18日(金) 11:40~12:40

D会場(中会議室コスモス①)

軽症化と難治性から考えるいわゆる現代型うつ病

座長	大森 哲郎	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野
演者	徳永 雄一郎	新光会不知火病院
共催	塩野義製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社	



ランチオンセミナー 5

7月18日(金) 11:40～12:40

E会場(中会議室コスモス②)

うつ病に対する薬物治療のエビデンス

座長	三村 将	慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
演者	岸 太郎	藤田保健衛生大学精神神経科学
共催	Meiji Seika ファルマ株式会社	

ランチオンセミナー 6

7月19日(土) 12:10～13:10

B会場(大会議室ダリア①)

抗うつ薬治療の現在－SSRIの新たな地平－

座長	山脇 成人	広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学
演者	白川 治	近畿大学医学部精神神経科学教室
共催	持田製薬株式会社／田辺三菱製薬株式会社／吉富薬品株式会社	

ランチオンセミナー 7

7月19日(土) 12:10～13:10

C会場(大会議室ダリア②)

うつからの社会復帰～職場と如何に連携するのか～

座長	上島 国利	国際医療福祉大学医療福祉学部
演者	井上 幸紀	大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学講座
共催	旭化成ファーマ株式会社／ヤンセンファーマ株式会社	

ランチオンセミナー 8

7月19日(土) 12:10～13:10

D会場(中会議室コスモス①)

女性の気分障害 イン・シネマ

座長	小山 司	北海道大学名誉教授／重仁会大谷地病院
演者	平島 奈津子	国際医療福祉大学三田病院精神科
共催	アステラス製薬株式会社	

イブニングセミナー 1

7月18日(金) 17:20～18:10

B会場(大会議室ダリア①)

うつ病と認知機能障害

座長	寺尾 岳	大分大学医学部精神神経医学講座
演者	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター
共催	塩野義製薬株式会社／日本イーライリリー株式会社	



イブニングセミナー 2

7月18日(金) 17:20～18:10

C会場(大会議室ダリア②)

個々の患者に合わせたうつ病治療～その多様性を超えて～

座長	中村 純	産業医科大学医学部精神医学教室
演者	大坪 天平	JCHO東京新宿メディカルセンター(旧東京厚生年金病院)精神科・心療内科
共催	グラクソ・スミスクライン株式会社／大日本住友製薬株式会社	

イブニングセミナー 3

7月18日(金) 17:20～18:10

D会場(中会議室コスモス①)

成人期発達障害の診断とうつ病との鑑別・併存について

座長	神庭 重信	九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野
演者	松本 英夫	東海大学医学部専門診療学系精神科学
共催	ヤンセンファーマ株式会社	



11th JSMD プログラム

一般演題（ポスター）



うつ病治療の再考
～脳科学からメンタルヘルスまで～

*Rethinking of
Depression Treatment:
From Neuroscience to
Mental Health*

1. 薬物療法

P1-1 実臨床におけるエスシタロプラムの使用経験－261例の検討－

田中 禎
ただしメンタルクリニック

P1-2 うつ病・うつ状態に対するLexapro使用・特定使用成績調査の中間集計結果

渡部 徹也、手嶋 司
持田製薬株式会社信頼性保証本部安全管理室

P1-3 大うつ病性障害に対するエスシタロプラムの急性期治療転帰に関する検討

林 優美¹⁾、岡本 泰昌²⁾、岡田 剛²⁾、土岐 茂²⁾、西本 美花³⁾、皆川 英明⁴⁾、
倉田 明子⁴⁾、山本 修⁵⁾、日域 広昭⁶⁾、横田 則夫⁷⁾、田村 達辞⁸⁾、山中 敏郎⁹⁾、
藤井 康能¹⁰⁾、小早川 誠²⁾、山脇 成人²⁾

- 1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科がん専門医養成コース、
- 2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学、3) 広島大学大学院教育学研究科、
- 4) 草津病院、5) 宇品メンタルクリニック、6) 日域医院、7) 横田メンタルクリニック、
- 8) たむらメンタルクリニック、9) 京橋心療クリニック、10) 藤井心療内科クリニック

P1-4 うつ病・うつ状態患者に対するアリピプラゾール内用液治療導入による有効性、安全性の検討

信田 広晶、木山 薫、高橋 美紀、増田 由佳子、岡村 有希子、古原 大司
しのだの森ホスピタル

P1-5 SSRI/SNRIで効果不十分な大うつ病性障害患者に対するアリピプラゾールの使用経験

肥田 裕久
ひだクリニック

P1-6 うつ病患者の薬物療法と精神症状

細川 幸二
帝京平成大学大学院

P1-7 単科精神科病院受診中のうつ病患者における抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬の併用状況について

佐藤 悟朗¹⁾、別所 千枝²⁾、住井 公美¹⁾、十河 正信¹⁾、中津 啓吾¹⁾、藤田 康孝¹⁾、倉田 明子¹⁾、
高橋 雪輝¹⁾、宮崎 貴浩¹⁾、西村 豊¹⁾、樽本 尚文¹⁾、渡邊 玲子¹⁾、田原 一優¹⁾、岩崎 庸子¹⁾、
矢田 博己¹⁾

- 1) 草津病院精神科、2) 草津病院薬局

P1-8 当院の緩和ケアにおける抗うつ薬の使用経験

石川 一郎¹⁾、新野 秀人²⁾、熊 宏美¹⁾、上野 美幸³⁾、中條 浩介⁴⁾、中村 祐¹⁾

- 1) 香川大学医学部精神神経医学講座、2) 香川大学医学部地域連携精神医学講座、
- 3) 香川大学医学部附属病院腫瘍センター、4) 香川大学医学部麻酔学講座

**P1-9 双極性感情障害II型患者の病相におけるアリピプラゾールの有効性について
—当院での経験から—**

前久保 邦昭、森 千栄子、辻 正記
前久保クリニック

**P1-10 双極性感情障害II型患者の病相におけるラモトリギンの有効性について
—当院での経験から—**

前久保 邦昭、森 千栄子、辻 正記
前久保クリニック

P1-11 気分障害でのラモトリギン有効血中濃度：後方視的研究

片山 陽介^{1,2)}、寺尾 岳¹⁾、亀井 公恵^{1,3)}、秦野 浩司¹⁾、河野 健太郎¹⁾、荒木 康夫¹⁾、
児玉 健介¹⁾、伊東 弘樹²⁾
1) 大分大学医学部精神神経医学講座、2) 大分大学医学部付属病院薬剤部、3) 帆秋病院

2. 薬物療法以外の治療法

P2-1 重症うつ病の特徴

—双極性障害、身体合併症、修正型電気けいれん療法に注目して—

中村 公哉¹⁾、伊賀 淳一²⁾、松本 直樹³⁾、大森 哲郎²⁾
1) 徳島大学病院、2) 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部精神医学分野、
3) 徳島県立中央病院

**P2-2 外来通院中のうつ病・不安障害の患者に対する集団認知行動療法への取り組み
気分評価尺度を用いた効果検証**

山岡 英雄、福岡 康馬
松山記念病院

P2-3 うつ・ストレス圏患者を対象とした心理教育の紹介とその効果判定の試み

名倉 祥文、伊東 優
宇治おうばく病院

P2-4 うつ病に対する認知行動療法の職種間における治療効果の比較検討

満田 大^{1,3)}、中川 敦夫^{2,3)}、中川 ゆう子³⁾、佐渡 充洋³⁾、藤澤 大介⁴⁾、菊地 俊暁⁵⁾、
岩下 覚¹⁾、三村 将³⁾、大野 裕⁶⁾
1) 桜ヶ丘記念病院、2) 慶應義塾大学医学部クリニックリサーチセンター、
3) 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、4) Massachusetts General Hospital、
5) 杏林大学医学部精神科、6) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

P2-5 作業療法に垣間見るうつ病の攻撃性～連続性と枠の中で見る表出的変化～

徳永 直也、徳永 雄一郎、高田 和秀、龍 亨、田嶋 祐一郎、宮成 祐輔
不知火病院



P2-6

抑うつ患者に対する行動活性化療法の集団プログラム開発の試み

田辺 紗矢佳¹⁾、南 花枝¹⁾、中村 元信¹⁾、中津 啓吾³⁾、永嶋 美幸¹⁾、大賀 健市¹⁾、
香川 芙美¹⁾、大盛 航¹⁾、板垣 圭^{1,2)}、柴崎 千代^{1,2)}、小早川 英夫¹⁾、竹林 実^{1,2)}

1) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター精神科、
2) 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター臨床研究部精神神経科学研究室、3) 草津病院

3. 病態・症状・診断・評価

P3-1

精神科外来通院患者における月経前不快気分障害の合併ならびに PMDD 評価尺度の妥当性に関する検討

若槻 百美、井上 猛、仲唐 安哉、林下 善行、中川 伸、久住 一郎
北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野

P3-2

うつ病に対する多面的評定を用いた臨床診断について (1) ー統合失調症様うつ病の場合ー

田中 伸一郎、戸部 有希子、森 千夏
杏林大学医学部精神神経科

P3-3

うつ病に対する多面的評定を用いた臨床診断について (2) ー自閉症スペクトラム関連性うつ病の場合ー

田中 伸一郎^{1,2)}、戸部 有希子¹⁾
1) 杏林大学医学部精神神経科、2) 北原リハビリテーション病院

P3-4

うつ病に対する多面的評定を用いた臨床診断について (3) ー精神病性うつ病の場合ー

田中 伸一郎^{1,2)}、戸部 有希子¹⁾
1) 杏林大学医学部精神神経科、2) 北原リハビリテーション病院

P3-5

日本におけるうつ病患者のアウトカムに及ぼす疼痛症状の影響

原田 英治¹⁾、Jeffrey Vietri²⁾、大坪 天平³⁾、辻 敏永⁴⁾、William Montgomery⁵⁾
1) 日本イーライリリー株式会社、2) Kantar Health, Health Outcomes Practice、
3) 東京新宿メディカルセンター (前・東京厚生年金病院)、4) 塩野義製薬株式会社メディカルユニット、
5) Eli Lilly Australia Pty Ltd

P3-6

心血管リスクをもつ患者での抑うつ・不安スコアと高血圧性臓器障害との関連と性差についての検討

甲谷 友幸、星出 聡、石川 譲治、江口 和男、菊尾 七臣
自治医科大学内科学講座循環器内科学

P3-7

うつ病を治療抵抗性とする要因の研究

木村 敦史、橋本 佐、伊豫 雅臣
千葉大学大学院医学研究院精神医学



P3-8

気分障害患者における強迫性パーソナリティ傾向と認知機能との関連

長島 杏那¹⁾、松尾 淳子¹⁾、木下 裕紀子¹⁾、石田 一希¹⁾、野田 隆政²⁾、樋口 輝彦³⁾、
功刀 浩¹⁾

- 1) 国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第三部、
- 2) 国立精神・神経医療研究センター病院、3) 国立精神・神経医療研究センター

P3-9

高齢者のうつ病と若年者のうつ病におけるアパシーの違い

島野 嵩久^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、比賀 雅行^{1,2)}、井上 恵^{1,2)}、石島 聡子^{1,2)}、
鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

- 1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室

P3-10

もの忘れを主訴として来院した患者の認知機能検査の特徴

－他覚的な抑うつの存在が及ぼす影響について－

古川 はるこ¹⁾、小川 佳那¹⁾、田村 伸子²⁾、青木 啓仁¹⁾、杉田 ゆみ子¹⁾、稲村 圭亮¹⁾、
小堀 聡久¹⁾、永田 智行¹⁾、落合 結介¹⁾、忽滑谷 和孝¹⁾、中山 和彦³⁾

- 1) 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、2) 東京慈恵会医科大学附属柏病院看護部、
- 3) 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

P3-11

単極性うつ病における焦燥は躁転の危険因子となるか？

前嶋 仁^{1,2)}、岩波 孝穂^{1,2)}、馬場 元^{1,2)}、里村 恵美^{1,2)}、野本 宏^{1,2)}、島野 嵩久^{1,2)}、
鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

- 1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室

P3-12

睡眠障害の改善と双極性障害の症状との関連についての検討

長田 賢一、牛谷 真由美、瀧沢 絵里、中野 三穂、渡邊 高志、田口 篤、芳賀 俊明、
武藤 亜矢、貴家 康男、山口 登
聖マリアンナ医科大学

P3-13

プラダー・ウィリー症候群における気分障害・精神病性障害

井原 裕¹⁾、尾形 広行¹⁾、佐山 真之¹⁾、村上 信行²⁾、儀藤 政夫^{1,3)}、城戸 康宏²⁾、
永井 敏郎²⁾

- 1) 獨協医科大学越谷病院こころの診療科、2) 獨協医科大学越谷病院小児科、3) 池沢神経科病院

P3-14

対人過敏・自己優先尺度 (IPS) の作成 (1) －抑うつの重症度、タイプとの関連－

村中 昌紀¹⁾、山川 樹¹⁾、坂本 真士²⁾

- 1) 日本大学大学院文学研究科、2) 日本大学文理学部

P3-15

高齢うつ病患者の認知機能における抗うつ薬の影響

比賀 雅行¹⁾、馬場 元^{1,2)}、前嶋 仁^{1,2)}、里村 恵美^{1,2)}、野本 宏^{1,2)}、島野 嵩久^{1,2)}、
鈴木 利人^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

- 1) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、Juntendo University Mood Disorder Project (JUMP)、
- 2) 順天堂大学医学部精神医学教室



P3-16

高齢者うつ病における脳機能および深部白質異常の関連性の検討

松原 敏郎、松尾 幸治、原田 健一郎、中島 麻美、樋口 尚子、樋口 文宏、綿貫 俊夫、
芳原 輝之、山形 弘隆、渡邊 義文

山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野

P3-17

言語流暢性課題施行中のうつ病患者における脳活動の脳磁図による時間・空間解析

志々田 一宏¹⁾、金山 範明¹⁾、橋詰 顕²⁾、山下 英尚¹⁾、岡本 泰昌¹⁾、栗栖 薫²⁾、
山脇 成人¹⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医学、

2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経外科

P3-18

異なる金額の報酬/罰に対する脳内報酬系の活動性の変化

森 麻子¹⁾、岡本 泰昌¹⁾、高村 真広¹⁾、岡田 剛¹⁾、神人 蘭^{1,2)}、高垣 耕企¹⁾、
山脇 成人¹⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学、

2) 広島大学保健管理センター

P3-19

抗うつ薬抵抗性うつ病のデフォルトモードネットワーク-安静時fMRI研究-

山村 崇尚¹⁾、岡本 泰昌²⁾、高石 佳幸²⁾、高村 真広²⁾、松本 知也²⁾、倉田 明子³⁾、
大田垣 洋子⁴⁾、萬谷 昭夫⁵⁾、岡田 剛²⁾、山脇 成人²⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科医歯薬学専攻、

2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医学、3) 草津病院心療内科・精神科、

4) 京橋心療クリニック、5) まんたに心療内科クリニック

P3-20

大うつ病性障害の症状経過、薬物療法に対するNIRS検査所見の有用性について

西岡 玄太郎^{1,2)}、古川 俊一³⁾、海老澤 尚⁴⁾、岩波 明²⁾

1) 川口病院、2) 昭和大学医学部精神医学講座、3) 東京警察病院神経科、4) メディカルケア虎の門

P3-21

光トポグラフィー検査で双極性障害パターンと評価された患者の特徴

永田 恵理香、秋山 友美、太田 杏奈、大和田 陽代、増岡 孝治、山本 憲、松本 早栄子、
野上 毅、大森 中、池森 紀夫、下田 健吾、木村 真人

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P3-22

うつ状態の重症度と光トポグラフィー検査による血流量の関連

秋山 友美、木下 恵理香、太田 杏奈、増岡 孝浩、大森 中、池森 紀夫、下田 健吾、
木村 真人

日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科

P3-23

NIRSを用いたうつ病の重症度評価の可能性

野田 隆政^{1,2)}、中込 和幸¹⁾、吉田 寿美子¹⁾、功刀 浩³⁾、樋口 輝彦⁴⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター病院、

2) 国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター臨床脳画像研究部臨床光画像研究室、

3) 国立精神・神経医療研究センター神経研究所、4) 国立精神・神経医療研究センター



P3-24

抑うつ症状を合併したパーキンソン患者に対する近赤外線光トポグラフィー (NIRS) による評価の可能性

横山 仁史¹⁾、野田 隆政^{1,2,3,4)}、中澤 佳奈子¹⁾、瀬戸山 志緒里¹⁾、村田 美穂^{1,2)}

- 1) 国立精神・神経医療研究センター病院、
- 2) 国立精神・神経医療研究センターパーキンソン病・運動障害疾患センター、
- 3) 国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター、
- 4) 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

P3-25

うつ病患者におけるBDNF血中濃度と気質・性格特性について(第二報)

野本 宏¹⁾、馬場 元²⁾、里村 恵美¹⁾、前嶋 仁²⁾、中野 祥行²⁾、竹林 奈緒子¹⁾、滑川 友紀²⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊¹⁾

- 1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-26

児童虐待のコーチゾル反応度への永続的な影響とうつ病発症との関連性

鈴木 彰子¹⁾、Lucia Poon³⁾、Andrew Papadopoulos³⁾、Veena Kumari²⁾、Cleare Anthony¹⁾

- 1) Department of Psychological Medicine, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 2) Department of Psychology, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 3) Affective Disorder Unit and Laboratory, South London and Maudsley NHS Trust

P3-27

児童虐待経験者における驚愕性瞬目反射感情調整：うつ病に対する強耐性と弱耐性

鈴木 彰子¹⁾、Lucia Poon³⁾、Veena Kumari²⁾、Anthony Cleare¹⁾

- 1) Department of Psychological Medicine, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 2) Department of Psychology, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 3) Affective Disorder Unit and Laboratory, South London and Maudsley NHS Trust

P3-28

顔の表情から情動を知覚する機能： 児童虐待の経験に起因するうつ病発症におけるその役割

鈴木 彰子¹⁾、Lucia Poon³⁾、Veena Kumari²⁾、Anthony Cleare¹⁾

- 1) Department of Psychological Medicine, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 2) Department of Psychology, Institute of Psychiatry, King's College London、
- 3) Affective Disorder Unit and Laboratory, South London and Maudsley NHS Trust

P3-29

大うつ病患者に長期残存する記憶機能障害を予測する神経内分泌学的マーカー

里村 恵美¹⁾、馬場 元²⁾、前嶋 仁²⁾、中野 祥行²⁾、竹林 奈緒子¹⁾、滑川 友紀²⁾、野本 宏¹⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊^{1,2)}

- 1) 順天堂大学医学部精神医学教室、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院

P3-30

デュロキセチンへの変更により改善したうつ病患者でのアクチグラムによる検討

石川 一朗¹⁾、新野 秀人²⁾、野口 勝宏¹⁾、樋笠 直哉¹⁾、中村 祐¹⁾

- 1) 香川大学医学部精神神経医学講座、2) 香川大学医学部地域連携精神医学講座

P3-31

行動計がaripiprazole薬効評価に有用であったうつ病の2症例： 日中活動量と睡眠状態の変化

吉成 美春、西多 昌規、菊地 千一郎、塩田 勝利、須田 史朗、加藤 敏
自治医科大学精神医学教室

P3-32

ヒト神経系細胞株におけるquetiapineのDNAメチル化への影響菅原 裕子¹⁾、文東 美紀²⁾、浅井 竜郎^{2,3)}、須永 史子²⁾、上田 順子⁴⁾、石郷岡 純¹⁾、笠井 清人³⁾、加藤 忠史⁴⁾、岩本 和也²⁾

1) 東京女子医科大学精神医学教室、2) 東京大学大学院医学系研究科分子精神医学講座、3) 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野、4) 理化学研究所脳科学総合研究センター

P3-33

胎生期と若年期ストレスを組み合わせた難治性うつ病モデルに対する薬物・細胞併用療法の可能性に関する研究木川 昌康、鶴飼 渉、橋本 恵理、石井 貴男、古瀬 研吾、辻野 華子、齋藤 利和
札幌医科大学医学部神経精神医学講座**4. ライフサイクルとうつ病**

P4-1

若年うつ病患者における抑うつ状態とストレス対処方法の関係辻本 江美^{1,2)}、辻井 農亜¹⁾、明石 浩幸¹⁾、三川 和歌子¹⁾、丹羽 篤¹⁾、安達 融¹⁾、小野 久江²⁾、白川 治¹⁾

1) 近畿大学医学部精神神経科学教室、2) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P4-2

閾値下うつとうつ病における行動的特徴の検討**— 閾値下うつに対する介入ターゲットの特定に向けて —**高垣 耕企¹⁾、岡本 泰昌¹⁾、神人 蘭^{1,2)}、森 麻子¹⁾、西山 佳子¹⁾、山村 崇尚¹⁾、竹林 由武³⁾、尾形 明子⁴⁾、岡本 百合²⁾、三宅 典恵²⁾、山脇 成人¹⁾

1) 広島大学大学院精神神経医科学、2) 広島大学保健管理センター、3) 広島大学大学院総合科学研究科、4) 広島大学教育学部

P4-3

青年期閾値下うつ病のうつ病発症に関するコホート研究神人 蘭^{1,2)}、岡本 泰昌¹⁾、高垣 耕企¹⁾、西山 佳子¹⁾、山村 崇尚¹⁾、森 麻子¹⁾、竹林 由武³⁾、田中 圭介³⁾、岡本 百合²⁾、三宅 典恵²⁾、尾形 明子⁴⁾、下田 陽樹⁵⁾、川上 憲人⁵⁾、古川 壽亮⁶⁾、山脇 成人¹⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医科学、2) 広島大学保健管理センター、3) 広島大学大学院総合科学研究科人間科学部門行動科学講座、4) 広島大学大学院教育学研究科心理学講座、5) 東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野、6) 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康増進・行動学

P4-4

前向きコホートによる産後うつ病予見因子の検討久保田 智香¹⁾、岡田 俊¹⁾、中村 由嘉子¹⁾、國本 正子¹⁾、森川 真子¹⁾、安藤 昌彦²⁾、尾崎 紀夫¹⁾

1) 名古屋大学大学院精神医学分野、2) 名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター

P4-5

産後の抑うつ状態とソーシャルサポート森川 真子¹⁾、岡田 俊²⁾、中村 由嘉子¹⁾、國本 正子¹⁾、宇野 洋太²⁾、久保田 智香¹⁾、安藤 昌彦³⁾、尾崎 紀夫^{1,2)}

1) 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、2) 名古屋大学大学院医学系研究科親と子どもの心療学分野、3) 名古屋大学医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター

P4-6 地域在住高齢者における大うつ病性障害の1年予後

天野 雄一¹⁾、端詰 勝敬¹⁾、蜂須 貢²⁾、吉田 英世³⁾、河合 恒³⁾、平野 浩彦³⁾、
小島 基永³⁾、藤原 佳典³⁾、大淵 修一³⁾、井原 一成⁴⁾

1) 東邦大学医学部心身医学講座、2) 昭和大学薬学部臨床精神薬学講座、
3) 東京都健康長寿医療センター研究所、4) 東邦大学医学部公衆衛生学分野

P4-7 高齢者混合性うつ病の特性について－退行期メランコリー再考

武島 稔^{1,2)}、岡 敬^{1,3)}

1) Jクリニック、2) 厚生連高岡病院精神科、3) 十全病院

P4-8 本邦地域住民における血清アミロイドβと抑うつ症状の関連について

敦賀 光嗣¹⁾、菅原 典夫¹⁾、古郡 規雄¹⁾、高橋 一平²⁾、土嶺 章子¹⁾、大里 絢子¹⁾、
中路 重之²⁾、中村 和彦¹⁾

1) 弘前大学大学院神経精神医学講座、2) 弘前大学大学院社会医学講座

P4-9 虚弱高齢者 (frail elderly) の心理特性の検討

服部 英幸

国立長寿医療研究センター精神科

P4-10 認知症早期受診が増えるとうつ病との鑑別がより重要になる？

－認知症外来受診動向とうつ病が先行した認知症症例からの考察－

永岡 広史、米澤 治文、中村 研、長嶺 敬彦、高橋 俊文

いしい記念病院

5. 自殺予防

P5-1 広島県における自殺未遂者実態調査

吉野 敦雄¹⁾、村上 和美²⁾、岡本 泰昌¹⁾、日域 広昭³⁾、芥川 亘⁴⁾、光元 麻世⁵⁾、
高畑 紳一⁶⁾、和田 健⁷⁾、山脇 成人¹⁾

1) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医学、2) 広島大学病院精神科、
3) 日域医院、4) 国立病院機構岩国医療センター、
5) 広島県立総合精神保健福祉センター、6) 県立広島病院精神神経科、7) 広島市民病院精神科

P5-2 自殺未遂者の電話フォローアップによる再企図防止効果

－富山県自殺未遂者支援モデル事業－

藤岡 珠美¹⁾、池田 英二^{1,4)}、増原 幸¹⁾、沢田 与志一²⁾、神通 一仁³⁾、樋口 悠子¹⁾、
高柳 陽一郎¹⁾、高橋 努¹⁾、鈴木 道雄¹⁾

1) 富山大学医学部薬学研究部神経精神医学教室、2) 信和会障害者社会復帰センターあゆみの郷、
3) 臼井学園北陸ビジネス福祉専門学校精神保健福祉学科、4) 神戸大学保健管理センター

**P5-3 メンタル看護相談外来でのうつ病者に対する感情調整療法を基盤とした
ナラティブアプローチの効果**

長谷川 雅美、木村 洋子

金沢医科大学看護学部

P5-4

高齢者の自殺企図に関する臨床的特徴の検討**－ 65歳以上の受診搬送者に着目して－**

福田 和久¹⁾、井手 みのり²⁾、池井 ありさ¹⁾、岩倉 由佳¹⁾、楠本 優子³⁾、船本 優子¹⁾、
増田 瑤子¹⁾、木下 裕久¹⁾、黒滝 直弘^{1,3)}、今村 明³⁾、小澤 寛樹³⁾

- 1) 長崎大学病院精神科神経科、2) 長崎大学病院看護部、
3) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座精神神経科学

P5-5

新聞報道におけるいじめと自殺の関係～事件記事の時系列内容分析～

岡本 雄太¹⁾、太刀川 弘和²⁾、志賀 弘幸³⁾、朝田 隆²⁾

- 1) 筑波大学医学群医学類、2) 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学、3) 大原神経科病院

P5-6

地方郡部に位置するかかりつけ病院内科外来における大うつ病・希死念慮の有病(症)率およびPatient Health Questionnaire-9の性能：層化抽出による横断調査

稲垣 正俊¹⁾、大槻 露華²⁾、米本 直裕³⁾、川島 義高⁴⁾、齋藤 顕宜⁴⁾、及川 雄悦⁵⁾、
黒澤 美枝⁶⁾、村松 公美子⁷⁾、古川 壽亮⁸⁾、山田 光彦⁴⁾

- 1) 岡山大学病院精神科神経科、
2) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター、
3) 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター情報管理・解析部、
4) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部、
5) 奥州市国民健康保険まごころ病院、6) 岩手県精神保健福祉センター、
7) 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科、8) 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻

P5-7

地域のかかりつけ医療機関におけるうつ病の発見と継続的ケアモデル実践例の後方視的検討

稲垣 正俊¹⁾、長 健²⁾、大槻 露華³⁾、原田 千恵美²⁾、畠山 みゆき²⁾、三宅 潤子²⁾、
光成 郁子²⁾、五阿弥 倫子²⁾、山田 光彦⁴⁾

- 1) 岡山大学病院精神科神経科、2) 長外科胃腸科医院、
3) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所自殺予防総合対策センター、
4) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部

P5-8

軽症うつ病における抑うつの自覚症状の乖離と自殺傾性との関連

辻井 農亜¹⁾、明石 浩幸¹⁾、三川 和歌子¹⁾、辻本 江美^{1,2)}、丹羽 篤¹⁾、安達 融¹⁾、
白川 治¹⁾

- 1) 近畿大学医学部精神神経科学教室、2) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域

P5-9

一般成人における抑うつ症状および、自傷または自殺念慮とTEMPS-Aによる気質との関連に関する研究

三井 信幸^{1,2)}、中井 幸衛¹⁾、井上 猛¹⁾、中川 伸¹⁾、仲唐 安哉¹⁾、北市 雄士¹⁾、
若槻 百美¹⁾、豊巻 敦人¹⁾、久住 一郎¹⁾

- 1) 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野、2) 市立稚内病院

6. 産業メンタルヘルス

P6-1 熊本県におけるうつ病の医療連携についての取組み

西 良知¹⁾、小山 明日香¹⁾、宮本 憲司朗²⁾、阿部 恭久²⁾、福永 竜太²⁾、宮本 靖子³⁾、
藤瀬 昇¹⁾、池田 学¹⁾

- 1) 熊本大学医学部附属病院神経精神科、
- 2) 八代更生病院、
- 3) 熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局障がい者支援課

P6-2 看護師の人口統計学的要因における抑うつ症状の差異—一般労働者との比較—

青木 俊太郎¹⁾、高垣 耕企²⁾、坂野 雄二³⁾

- 1) 北海道医療大学大学院心理科学研究科、
- 2) 広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門精神神経医科学、
- 3) 北海道医療大学心理科学部

P6-3 看護基礎教育におけるうつ病看護に関する教科書記述の変遷

南迫 裕子

神経研究所付属晴和病院

P6-4 A 大学教職員におけるメンタルヘルス評価システムの有用性の検討

土井原 千穂¹⁾、岸本 智美¹⁾、金澤 直樹¹⁾、飛田 千絵¹⁾、近藤 智津恵¹⁾、鈴木 貴代美^{1,2)}、
岸田 郁子³⁾、河西 千秋^{1,2,3)}

- 1) 横浜市立大学保健管理センター、
- 2) 横浜市立大学医学群健康増進科学、
- 3) 横浜市立大学精神医学教室

P6-5 A 総合大学学生におけるメンタルヘルス評価システムの有用性の検討

岸本 智美¹⁾、土井原 千穂¹⁾、金澤 直樹¹⁾、飛田 千絵¹⁾、近藤 智津恵¹⁾、鈴木 貴代美^{1,2)}、
岸田 郁子³⁾、河西 千秋^{1,2,3)}

- 1) 横浜市立大学保健管理センター、
- 2) 横浜市立大学医学群健康増進科学、
- 3) 横浜市立大学精神医学教室

P6-6 うつ病再休職者におけるエゴグラムの特徴

黒田 優希、森陰 里美、小林 真実、松原 六郎

松原病院

P6-7 日本人勤労者における抑うつの因子構造に与える性差と加齢の影響

菅原 典夫¹⁾、古郡 規雄¹⁾、高橋 一平²⁾、松坂 方士²⁾、中路 重之²⁾

- 1) 弘前大学大学院神経精神医学講座、
- 2) 弘前大学大学院社会医学講座

P6-8 東日本大震災における北茨城市在住の福島県避難者のうつ状態について

佐藤 晋爾¹⁾、石田 一希²⁾、服部 功太郎²⁾、太田 深秀²⁾、内田 和彦³⁾、功刀 浩²⁾、
朝田 隆¹⁾

- 1) 筑波大学精神科、
- 2) 国立精神神経医療研究センター神経研究所疾病第三部、
- 3) 筑波大学医学医療系



P6-9

**復職支援プログラムの卒業時・3ヶ月後のアンケートにおける考察
ープログラムの必要性・有用性についてー**

野角 淑江、徳永 雄一郎、山下 秀一、大仁田 広恵、福島 尚子
不知火クリニック

P6-10

**復職決定時におけるうつ病勤労者の活動性の評価と復職継続率
～活動性の高い患者と低い患者で復職継続率に差があるのか～**

堀 輝、香月 あすか、守田 義平、西井 重超、柴田 裕香、菅 健太郎、吉村 玲児、
中村 純
産業医科大学医学部精神医学教室

P6-11

**インターネットを用いた勤労者のためのメンタルヘルスサポートシステム
“メンタルろうさい”普及の意義(第4報)**

山本 晴義
横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター

P6-12

**リワークプログラム利用者の復職後2年間の予後：
web 調査を主とした混合型調査方式による前方視的追跡調査**

大木 洋子^{1,2)}、五十嵐 良雄²⁾、山内 慶太¹⁾
1) 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科医療マネジメント専修、2) メディカルケア虎ノ門

P6-13

**当院でのメンタル不調休業者における、再休業群と非再休業群との比較
ー休業期間とSDS値に注目してー**

森 千栄子、辻 正記、前久保 邦昭
前久保クリニック

P6-14

当院におけるリワークデイケアの取り組み

松本 敦、平山 愛歌、飯村 愛、上野 友美、小泉 友里恵、信田 広晶
しのだの森ホスピタル

P6-15

復職決定時におけるうつ病患者の認知機能

香月 あすか、堀 輝、柴田 裕香、西井 重超、菅 健太郎、中村 純
産業医科大学精神医学教室

P6-16

復職決定時におけるうつ病患者の睡眠効率

柴田 裕香、堀 輝、香月 あすか、西井 重超、菅 健太郎、中村 純
産業医科大学精神医学教室

P6-17

ブルドン抹消検査を用いた復職評価基準の検討

宮成 祐輔¹⁾、田嶋 祐一郎¹⁾、奥園 景子²⁾、徳永 直也¹⁾、龍 亨¹⁾、前田 佐織¹⁾、
高田 和秀³⁾、徳永 雄一郎³⁾
1) 不知火病院リハビリテーション科、2) 不知火病院臨床心理科、3) 不知火病院精神科

P6-18

病院職員間で行う職場復帰支援の効果

木村 佐宜子
聖マリア病院臨床心理室



7. 症例検討

P7-1

高齢女性の入院治療への期待

—うつ病回復要因に焦点をあてた聞き取り調査を行って—

内田 靖子、高木 香穂里、安藤 馨、井口 真理子

神奈川県立精神医療センター 芹香病院

P7-2

物忘れ外来におけるうつ状態の鑑別の重要性について

～認知症以外の物忘れを主訴とするうつ状態の鑑別を要した2事例からの考察～

上村 直人、土居 江里奈、須賀 楓介、赤松 正規、下寺 信次、森信 繁

高知大学医学部附属病院精神科

P7-3

解離症状が合併したうつ病休職者への生物心理社会の多面的な支援が有効であった事例

山本 貢司^{1,2)}、横田 安奈¹⁾、森山 史子¹⁾、三木 和平¹⁾

1) 三木メンタルクリニック、2) 田園調布カウンセリングオフィス

P7-4

対人関係カウンセリング的介入により改善したディスチミア親和型うつ病様患者の一例

竹谷 怜子¹⁾、円山 アンナ²⁾、小野 久江^{1,2)}

1) 関西学院大学大学院文学研究科総合心理科学専攻心理科学領域、2) 円山医院

P7-5

ロールシャッハテストから認知療法の施行が検討された大うつ病性障害の1症例

浅野 正¹⁾、竹井 浩人²⁾、馬場 元²⁾、鈴木 利人²⁾、新井 平伊³⁾

1) 文教大学人間科学部臨床心理学科、2) 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院、

3) 順天堂大学医学部精神医学教室

P7-6

うつ病に対するインターネット支援型認知行動療法の実践：症例報告

小口 芳世^{1,3)}、加藤 典子^{2,3)}、中川 ゆう子^{1,3)}、田村 法子²⁾、樋山 光教³⁾、満田 大¹⁾、
佐渡 充洋¹⁾、大野 裕²⁾、三村 将¹⁾、中川 敦夫^{1,4)}

1) 慶應義塾大学精神神経科学教室、2) 国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、

3) 国立病院機構東京医療センター、4) 慶應義塾大学医学部クリニックリサーチセンター

P7-7

約2年間にわたり遷延したうつ病性亜昏迷状態に対して、修正型電気痙攣療法が有効であった双極性障害の一例

内田 健太郎、谷 宗英、小西 章仁、児玉 祐也、影山 祐紀、浅田 奈緒美、三谷 沙緒里、
松田 泰範、片上 素久、井上 幸紀

大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学

P7-8

未破裂脳動脈瘤を合併したうつ病患者に対する電気けいれん療法の施行経験

綿貫 俊夫¹⁾、樋口 尚子¹⁾、井上 宏治²⁾、石田 和慶³⁾、松本 美志也³⁾、渡邊 義文¹⁾

1) 山口大学医学部附属病院精神科神経科、2) 三隅病院、3) 山口大学医学部附属病院麻酔科蘇生科

P7-9

「維持ECTの実施間隔の延長が困難であること」はbipolarityの指標になり得るか？

由井 寿美江^{1,2)}、荒井 宏²⁾、杉山 暢宏¹⁾、鷲塚 伸介¹⁾、天野 直二¹⁾

1) 信州大学医学部附属病院精神医学講座、2) 長野赤十字病院



P7-10

うつ病を発症し自宅に引きこもりとなった20代女性に対し酸棗仁湯を使用した1例

瀬川 昌弘、山脇 成人

広島大学大学院医歯薬保健学研究院精神神経医科学

P7-11

リエゾン外来における不安・抑うつへの対応－5-HT_{1A} アゴニスト増強療法の応用樋口 悠子¹⁾、古市 厚志¹⁾、住吉 太幹²⁾

1) 富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学講座、2) 国立精神・神経医療研究センター

P7-12

薬物療法と全人的医療により高容量オピオイドを半減できた一例村田 昌彦¹⁾、大武 陽一¹⁾、酒井 清裕¹⁾、阪本 亮¹⁾、牧村 ちひろ¹⁾、松岡 弘道²⁾、
奥見 裕邦¹⁾、小山 敦子¹⁾

1) 近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門心療内科分野、

2) 近畿大学医学部附属病院がんセンター緩和ケア室

P7-13

長期持続型エリスロポエチン製剤投与後、抑うつ・自殺行動が改善した血管性認知症の1例井上 恵^{1,2)}、笠貫 浩史^{1,2)}、西野 亮太²⁾、相澤 昌史³⁾、野村 影理³⁾、馬場 元^{1,2)}、
一宮 洋介^{1,2)}、新井 平伊^{1,2)}

1) 順天堂大学東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック、2) 順天堂大学医学部精神医学教室、

3) 順天堂大学東京江東高齢者医療センター腎臓内科

